

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 15-1

問1)

星稜工業(株)は、標準製品Sを量産し、パーシャル・プランの標準原価計算を採用している。次に示す当期の資料にもとづいて、設問に答えなさい。なお、当社の決算日は毎年3月末日の年1回（当期は20×0年4月1日から20×1年3月31日）である。

(資料)

① 原価標準

直接材料費：	340円/kg × 4kg	= 1,360円
直接労務費：	830円/時間 × 2時間	= 1,660円
製造間接費：	1,020円/時間 × 2時間	= 2,040円
	製品1個あたりの標準製造原価	<u>5,060円</u>

(注1) 製造間接費の標準配賦率は公式法変動予算（直接作業時間）にもとづき算出されている。

② 3月の生産データおよび年間の販売データ

(1) 3月の生産データ

月初仕掛品	30個	(0.5)
当月投入	790個	
合計	<u>820個</u>	
月末仕掛品	60個	(0.5)
当月完成品	<u>760個</u>	

(2) 年間の販売データ

当期完成品	7,400個
期末製品	400個
当期販売量	<u>7,000個</u>

(注2) 直接材料はすべて工程の始点で投入している。
 (注3) () 内の数値は加工費進捗度である。
 (注4) 期首において仕掛品、製品は存在しなかった。

③ 3月における直接材料の受払記録

月初棚卸高	348円/kg × 500kg
当月購入高	341円/kg × 3,000kg
月末棚卸高	?円/kg × 260kg

当社では、掛けて購入したときに実際購入原価で受け入れている。なお、実際消費単価の計算は平均法による。また、期首において材料は存在しなかった。

④ 3月における直接労務費、製造間接費の実際発生額

直接労務費	1,298,320円
製造間接費	1,594,750円

⑤ 20×0年4月から20×1年2月までの原価差額累計

消費材料価格差異	92,270円	貸方
材料消費量差異	136,920円	借方
直接労務費差異	129,350円	借方
製造間接費差異	149,710円	借方

⑥ 製品Zの販売価格は、1個あたり6,800円である。

(設問)

解答用紙の当期の損益計算書（売上総利益まで）と貸借対照表（一部）に適切な用語及び金額を埋めて完成しなさい。なお、原価差異はすべて比較的多額であるものとして、原価要素ごとに当期の売上原価と期末棚卸資産に追加配賦するものとする。

解1)

(単位：円)

損益計算書

I 売上高			
II 売上原価			
1.	()		
2.	期末製品棚卸高		
	標準売上原価		
3.	原価差額		
	売上総利益		

貸借対照表

流動資産		
：		
製品		
()		
仕掛品		

